

第15回全国高等学校情報教育研究会全国大会（オンライン大会）

第15回全国大会（オンライン大会）事務局
東京都立小平高等学校 指導教諭

小松 一智

1. はじめに

第15回全国高等学校情報教育研究会全国大会（オンライン大会）は「教科「情報」第3ステージ～「情報Ⅰ」の実践～」というテーマで、2022（令和4）年8月9日（火）、10日（水）の2日間にわたり開催した。2021年（令和3）年から新型コロナウイルス感染症の感染状況が懸念されたため、当初からオンラインでの開催として計画した。3年連続のオンライン開催である。少しでもリアルでの開催に近づけるため、新たな取り組みとしてパブリックビューイング会場を設けることにした。大学入学共通テストへの情報科目の導入、新学習指導要領の実施と教科「情報」が注目されていたこともあり、参加申し込みが例年以上に多い460名となった。

2. 第15回全国大会（オンライン大会）の概要

2.1 開会行事

全国高等学校情報教育研究会会長・東京都立田園調布高等学校長 福原利信氏の挨拶で開会した。

2.2 共催・後援

パブリックビューイング会場である工学院大学から共催をいただくことができた。オンラインの配信会場でもあり、ネットワーク環境を利用させていただくなど、多大な協力をいただいた。

また、パブリックビューイング会場が東京にあることから、関東圏からは比較的集まりやすいだろうと考え、文部科学省に加え、1都6県から後援をいただくこととした。学会などからも計13団体から後援をいただいた。

2.3 基調講演

電気通信大学大学院情報理工学研究科教授の中

山泰一氏に「情報Ⅰ、情報Ⅱ、そして情報入試～全高情研とともに～」という題目で講演いただいた。情報科と情報入試に関する内容で、学会や研究会の取り組みや、情報学、教員採用に関してなど、とても参考になる貴重な講演だった。

2.4 発表

昨年の第14回大阪大会に引き続き、口頭発表（リアルタイム）と動画発表（オンデマンド）の2形式での発表であった。

2.4.1 口頭発表（リアルタイム）

口頭発表は初日と2日目にわけて3分科会、計23本の発表を実施した。昨年までのウェビナー形式ではなくミーティング形式を採用した。発表者・参加者ともにミーティング形式に慣れてきたこともあり、トラブルもなく実施され、質疑も活発であった。また、若手教員にも積極的に発表の場を提供したいとの思いから若手枠を設けるといった取り組みも行った。参加申し込みをした方向けに、アーカイブ配信を実施予定である。見逃してしまった方はぜひ利用して頂きたい。また、大会後でも参加申し込みは受け付けているので活用していただきたい。

分科会1 メディアと情報デザイン

1	情報Ⅰ「データの活用」におけるSTEAMライブラリー動画教材を活用した授業実践
2	動画と文字を重ね合わせたコンテンツを制作する授業実践
3	こんな情報デザインの授業やってみた～情報デザイン×知的財産権×プレゼンテーション～
4	（若手枠） 都民による事業提案制度を活用した、情報社会の問題解決学習

5	問題解決を情報デザインで行う授業実践
6	教科書から見た著作権教育の中高・高大連携の課題と提案
7	動くピクトグラムの制作を通じたアクセシビリティの学習

分科会2 プログラミングとデータの活用

1	成人のプログラミング学習のハードルとその越え方
2	データ分析の学習を支援するオンラインデータ分析学習教材の提案
3	数学科と連携した情報の授業実践について
4	(若手枠) アイデア実現に重点を置きその過程でプログラミングを学ぶmicro:bit作品制作実習の実践報告と分析
5	情報Iを見据えたプログラミング教育～学習者の独自設計を可能にさせたミニチュア配膳ロボットのプログラミング教材の開発と実践と評価～
6	表計算・プログラミング両面による統計分析指導実践省察
7	感染者数をシミュレーションした実践事例
8	専門科目「情報学基礎」におけるRaspberry Pi 実習の取組

分科会3 授業の設計と評価

1	「情報I」のその先へ
2	すべての高校生に「基礎情報学」のエッセンスを—これからの情報教育のあるべき姿に関する一考察—
3	情報科教員として採用される際に重視される知識・技能の検討
4	(若手枠) 「情報I」のデータ活用を意識した問題解決型授業の実践
5	探究活動をサポートするアンケート作りの授業
6	高校生が自分事として捉えて学ぶ「情報I」の実践—情報I入試を意識した導入の授業—
7	1人1台端末によって「できるようになったこと」と「できなくなったこと」

8	高等学校「情報I」における「授業」と「評価」
---	------------------------

2.4.2 動画発表（オンデマンド）

1	高等学校における探究学習の教材開発と授業実践—教材をどのように作るか？—
2	感染シミュレーションとデータ処理
3	データベース指導実践「オフラインRDB・オンラインRDB」比較省察
4	情報科の先生はポートフォリオを作って公開しよう！
5	教科書から見た著作権教育の中高・高大連携の課題と提案
6	ポートフォリオを活用した情報Iの問題解決
7	情報Iと1人1台端末を活用した授業実践の報告と展望について—一般教室で文房具のように端末を活用する授業を目指して—
8	ICTのデメリットを補う習得型AL（普通授業実践編）3年間の実践から新たにみえてきたこと
9	提出課題の改善点を具体化する相互評価の取組
10	教員南極派遣プログラムにおける情報科教育の可能性
11	4年間の情報Iの教材開発とその実践結果
12	中等部1年生の変化・中等教育に求められる「情報」の在り方について—GIGA世代の小中学生を迎えて感じること～
13	「情報I」で大切にしてほしいこと
14	情報Iのプログラミング学習環境に関する考察
15	「情報I」における情報モラル教育の実践とその考察

2.4.3 ポスターセッション発表

今回のオンライン大会では、オンラインではなかなか実施できなかったポスターセッション発表を実施することができた。ブレイクアウトルームを活用したポスターセッション発表で、企業展示と並行して実施した。

1	高校教科「情報」の来歴と未来
2	共通テスト対策用の予想問題の作成
3	情報科教科書に現れる用語の変遷—情報ABCから情報I—
4	高校生がWeb上のデータをスクレイピングするWebAPIの提案

2.5 協賛・企業展示・広告動画

18件の協賛をいただくことができ、そのうち7社にポスターセッション発表と並行した企業展示に参加していただいた。また、8社から広告動画を提供していただき、大会期間中に随時配信した。12月末まで本研究会のサイト内にリンクがあるので、ぜひ閲覧していただきたい。

2.6 講評・講演

講評・講演は、国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官、文部科学省初等中等教育局修学支援・教材課／教育課程情報教育振興室教科調査官、文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当）付産業教育振興室教科調査官である田崎丈晴氏にいただいた。1人1台端末環境等の整備に伴うコンピュータ教室についてなど、情報提供をいただくとともに、これからのわれわれが行うべきことを明確にいただいた。

2.7 閉会行事

閉会行事では、本研究会会長の福原利信氏が大会宣言を発表し、閉会の挨拶及び閉会宣言を同副会長の神奈川県立希望ヶ丘高等学校長の柴田功氏が行った。大会宣言は本研究会Webページで公開している。

2.8 オンライン懇親会

閉会后ではあるが、2日目の夜にオンラインでの懇親会を行った。多数の方に参加していただくことができ、有意義な情報交換の場となった。

3. おわりに

初日の開会前にはアクセスが集中したことにより、本研究会のサイトに接続がしづらくなり、心配をおかけしてしまった。ここに深くお詫び申し

上げたい。

今回は、情報Iがスタートした年であり、大学入学共通テストで情報を受験する生徒を教える最初の年である。そのため、様々な方に参加していただき、情報交換ができる場を設けられたことはとても有意義であった。また、参加者・発表者、講演者、企業の皆様、そして大会運営に携わった実行委員の方々の協力で第15回全国大会（オンライン大会）を閉会できた。感謝の気持ちでいっぱいである。

昨年は現地開催を目指して準備を進めていたが、オンラインでの開催となった。そのため、第13回から今回の第15回まで連続して3回のオンライン開催となった。オンラインでの参加にもずいぶん慣れて、参加された方にとってはサイトへのアクセス以外は問題はなかったと思われる。オンラインは空間を超えてつながることができるため、とても便利なものである。しかし、パブリックビューイングを行うことで、リアルで会うことの重要性も感じることもできた。早く現地開催が行えるような状況になってほしいと願う。



写真1 大会冊子表紙

参考URL

全国高等学校情報教育研究会
<https://www.zenkojoken.jp/>

第15回全国大会（オンライン大会）広告動画
<https://www.zenkojoken.jp/15online/2022016409/>